

## 輸入抗がん剤の関税撤廃とがん事情

株式会社クララオンライン  
コンサルティングチーム

### <要約と結論>

国務院常務会議はこのほど、2018年5月1日から輸入抗がん剤の関税を撤廃することを決定した。あわせて、これらの抗がん剤が医療保険の対象となるよう取り計らい、新薬の知的財産権に保護期間を設けるなど、医薬品の価格を抑制するための取り組みを一層強化する。

インターネットを通じた医療改革にも着手し、オンライン診療予約システムの整備や慢性疾患のオンライン再診サービスを解禁することも明らかになった。さらに遠隔医療サービスを実現し、東部のレベルの高い医療リソースを中部・西部地域で活用することも計画されている。

輸入抗がん剤は2017年末に関税が引き下げられている。今回の関税撤廃による経済的な負担の軽減はわずかとみられるが、保険適用となったり、流通段階での価格上乗せを禁じたりすることで、最終的には大幅な値下げになるとの期待は強い。

中国で2017年に新たに診断されたがんは429万例に上っている。これは毎日平均1.2万人ががんと診断されている計算になる。東部、中部、西部と地域によつてり患率には差があるが、いずれも肺がんが最も多い。

一般的にがん治療には高額な医療費が必要で、約8割の家庭が経済的負担は大きいと答えている。特に大腸がんと食道がんには平均して1万ドルを越える医療費がかかるとのデータもあり、その7割以上が自己負担になっているといわれる。

一方で富裕層を中心により良い治療を求めて海外に渡るケースが増えている。治療目的の渡航者数は明らかでないが、江蘇省だけで毎年数十人、全国では少なくとも1,000人以上が仲介会社を通じて渡航している。

保健医療分野は政府が最も成長に力を入れている領域の一つで、2015年には「がんの予防・治療に関する3年行動計画(2015-2017)」を発表している。具体的な数値目標を挙げて、がんに関する知識の普及や早期発見・早期治療などに取り組んでいる。今回決定した輸入抗がん剤の関税撤廃や新薬の知的財産権保護等を盛り込んだ新たな3年計画が間もなく発表されるとの見方も出ている。

## 1. 輸入抗がん剤の関税撤廃が決定

國務院常務會議はこのほど、輸入抗がん剤の関税撤廃を決定した。施行は2018年5月1日からとなっている。あわせて、海外のがん治療用新薬で国内でも需要が高いものについては政府が集中調達を行い、医療保険の対象となるよう速やかに手配するとした。さらに既存の越境 EC チャンネルを活用した医薬品の輸入を検討し、流通段階での不合理な価格上乗せを解消するとした。



また国内の新薬に関する知的財産権について最高6年の保護期間を設けるとし、輸入医薬品については偽造品の製造販売を一掃するべく、海外にある生産現場での検査を強化するとしている。

このほか、「インターネット+健康医療」政策の一環として、2級以上に該当する病院ではインターネットを通じた診療予約や検査結果の閲覧システムを速やかに整備する方針を発表。風邪のような日常的な病気や高血圧、糖尿病といった慢性疾患の再診についてはインターネットを通じた医療サービスを解禁するとし、東部地域の医療リソースを中西部地域で活用する遠隔医療サービスを実現するため、専用高速通信回線の敷設を支援する方針を明らかにした。

## 2. 総合的には大幅な値下げになると期待

中国は2017年12月1日から、輸入抗がん剤26種類について関税率を一律2%に引き下げている。インターネット上には、元々2%だったものが撤廃されても大きな値下げにならない、といった意見も多いが、医療保険償還リストに掲載されることで保険適用となったり、流通段階での価格上乗せを禁じたり、輸入時の増値税負担を軽減したりといった様々な価格抑制策が行われることで、最終的に大幅な値下げになるとの見方が大きい。

中国政府はかねてより輸入医薬品の価格について海外の製薬メーカーと話し合いを重ねている。人的資源社会保障部によると、2017年に新たに医療保険償還リストに掲載された36種類の輸入医薬品(うち抗がん剤は18種類)の価格は、前年に比べて平均



イコチニブ塩酸塩錠は1箱が  
1週間分で1,000~2,000元

44%、最高で70%も値下がりしており、大部分は周辺諸国の国際市場価格よりも低く抑えられているという。

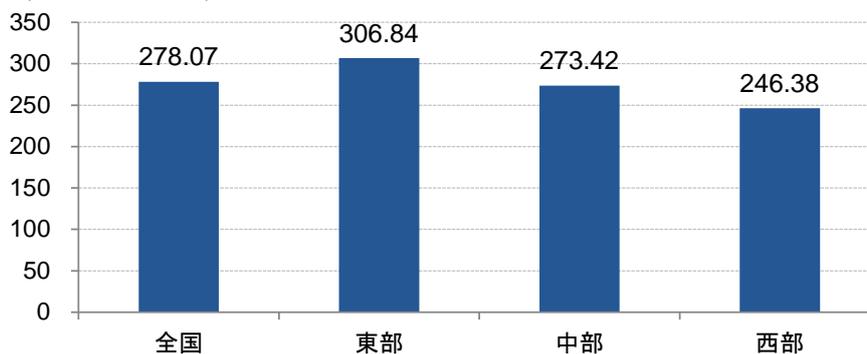
さらに政府は薬価を抑えるため、国内の創薬研究の支援も積極的に進めている。例えば、浙江貝達薬業有限公司のイコチニブ塩酸塩錠は、中国で初めて開発された小細胞肺がんで使用される抗がん剤だ。同種の輸入抗がん剤に比べて価格は3分の1で、発売初年度の売上は2億元を越えている。

### 3. 中国のがん患者数

国家がんセンターが2018年2月に発表した最新のがん統計(2014年)によると、2014年に新たに診断されたがんは380.4万例で、男性が211.4万例、女性が169万例だった。おおよそ毎日平均して1万人ががんと診断されており、1分あたりでは7人に上る。速報値であるが2017年は429万例で、毎日平均1.2万人ががんと診断され、7,700人ががんで亡くなっている状況となっている。

#### 中国のがん発病率 (2014年)

(単位:10万分の1)



Source: 全国肿瘤登记中心 2018.2

り患者数を地域別にみると東部、中部、西部の順で多く、部位別では肺がんが最も多い約78.1万例で、つづいて胃がん、結腸がん、肝臓がん、乳がんの順となっている。一方、死亡数は肺がん、肝臓がん、胃がん、食道がん、結腸がんの順に多い。

り患数、死亡数ともに1位の肺がんについては、男性は喫煙率が高いこと、女性は喫煙率こそ低いものの受動喫煙の影響を受ける人の割合が71.6%に上ることや暖房による室内空気汚染が大きな原因と分析している。胃がんは特に遼東半島、山東半島、長江三角州、太行山脈(北京の端から河南省にかけて南北に伸びる山脈)、甘粛省でり患率が顕著だという特徴がある。肝臓がんは、西部、中部、東部の順でり患率が高いが、これは西部ほどB型肝炎やC型肝炎のり患率が高いこと、発がん性のあるカビ毒アフラトキシン類を微量ながら慢性的に摂取している可能性が高いこと、脂肪肝や肥満といった肝臓がんを発症しやすい条件を備えていることなどを理由として指摘している。また中国は食道がんのり患率と死亡率が世界で最も高い国の一つで、特に河南省、河北省、山西省といった太行山脈の地域でり患率が高い。

各規模の都市における死亡率トップ10のがん (死亡率:1/10万人)

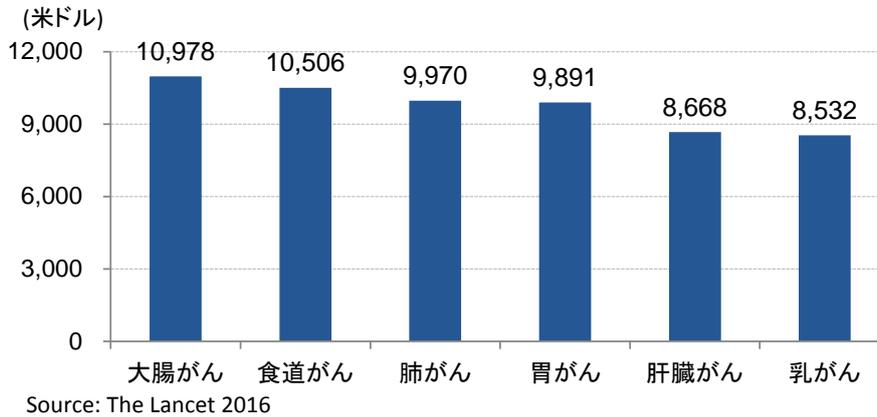
小規模都市			中規模都市			大規模都市		
1	肺がん	40.71	1	肺がん	47.79	1	肺がん	54.19
2	胃がん	25.91	2	胃がん	26.13	2	肝臓がん	21.80
3	肝臓がん	25.83	3	肝臓がん	25.89	3	胃がん	19.33
4	食道がん	18.99	4	食道がん	20.84	4	大腸がん	19.08
5	大腸がん	9.04	5	大腸がん	12.41	5	すい臓がん	8.96
6	脳腫瘍	4.31	6	すい臓がん	6.88	6	食道がん	8.56
7	乳がん	8.44	7	乳がん	9.59	7	乳がん	12.78
8	すい臓がん	3.75	8	脳腫瘍	4.46	8	悪性リンパ腫	4.71
9	白血病	3.58	9	白血病	4.08	9	白血病	4.60
10	悪性リンパ腫	2.45	10	悪性リンパ腫	3.37	10	胆のうがん	4.44

Source: 全国肿瘤登记中心 2018.2

#### 4. 年収を上回る高額な治療費が負担に

総合医学雑誌「ランセット(The Lancet)」に掲載された中国国家がんセンターの調査では、2012~2014年の3年間に全国13の省にある37の大型総合病院でがん患者1万4,594人が支出した治療費は平均9,739ドル(約105万円)だった。調査対象となった家庭の平均年収は8,607ドル(約93万円)で、全体の77.6%が負担は重いと答えている。

## 都市部における平均的ながん治療費



とりわけ治療費の負担が重いのは大腸がんと食道がんで、それぞれ平均 10,918 ドル(約 119 万円)と平均 10,506 ドル(約 114 万円)に上っている。これは抗がん剤の多くを欧米諸国からの輸入に頼っているため、保険償還の対象となる薬品は年々増えているものの、治療費の 70%以上が自己負担となっている。なお前がん病変と診断された患者 1,532 人が支出した治療費は平均 3,221 ドル(約 34 万円)だった。

一方で、富裕層を中心により良い治療を求めて海外に渡るケースも増えている。欧米では中国でまだ承認されていない薬や治療法が選択できる上、中国に比べて病院の環境が良く、インフォームドコンセントがしっかりしているからだ。例えば胃がんの 5 年生存率は、中国では 27.4%(2015 年)にとどまるが、日本では 74.5%(2009 年)と大きな差がある(2015 年中国がん統計データより)。



仲介大手の盛諾一家は日本の提携先としてがん研有明病院を紹介

実際にどのくらいの患者ががん治療のために渡航しているか詳細なデータはないが、江蘇省に拠点を置くメディアの現代快報は、江蘇省だけで毎年数十人、全国では少なくとも 1,000 人以上が仲介会社を通じてアメリカ、ドイツ、イギリス等の病院に治療を受けに行っており、このうち 80%が末期がんと診断された患者だと報じている。アメリカの場合、医療費とは別に 1 カ月の宿泊・生活費としておよそ 5 万元(約 85 万円)が必要となるが、江蘇省の患者のケースでは少なくとも 20 万元(約 340 万円)、最高で 400 万元(約 6,860 万円)かかっている。ちなみに、がん治療や脳外科手術ならアメリカ、骨や心臓の病気ならイギリス、小児がんや脳腫瘍ならドイツがお勧めなのだという。

## 5. 新たな「がん対策 3 年計画」が出る可能性も

中国政府は 2015 年に「がんの予防・治療に関する 3 年行動計画(2015-2017 年)」を発表し、具体的な数値目標を挙げて早期発見・早期治療の推進や生存率の引き上げ、創薬支援などを進めてきた。がんの予防・治療に関する知識の普及目標は 60%となっているが、浙江省ではすでに 78.4%を達成したとの結果も出ており、近く 2017 年までの 3 年間の実施状況が報告されるものと思われる。また保健医療分野は政府が主導する重点領域であることから、先日決定した輸入抗がん剤の関税撤廃や新薬の知的財産権保護などを盛り込んだ新たな 3 年計画が間もなく発表されるとの見方も出ている。



がんの予防・治療に関する 3 年行動計画(2015-2017 年)

- 本レポートに含まれる情報は一般的なご案内であり、包括的な内容であることを目的としておりません。また法律・条令の適用と影響は、具体的な状況によって大きく変化いたします。具体的な事業展開にあたってはクララオンライン コンサルティングサービスチームより御社の状況に特化したアドバイスをお求めになることをおすすめいたします。また本書の内容は 2018 年 4 月 24 日時点で編集されたものであり、その時点の法律及び情報、為替レートに基づいています。

本書はクララオンライン コンサルティングサービスチームにより作成されたものです。クララオンラインの中国、台湾、韓国、シンガポールなどアジア各国のインターネットコンサルティングサービスに関するお問い合わせは以下の連絡先までお気軽にご連絡ください。

asia@clara.ad.jp または +81(3)6704-0776